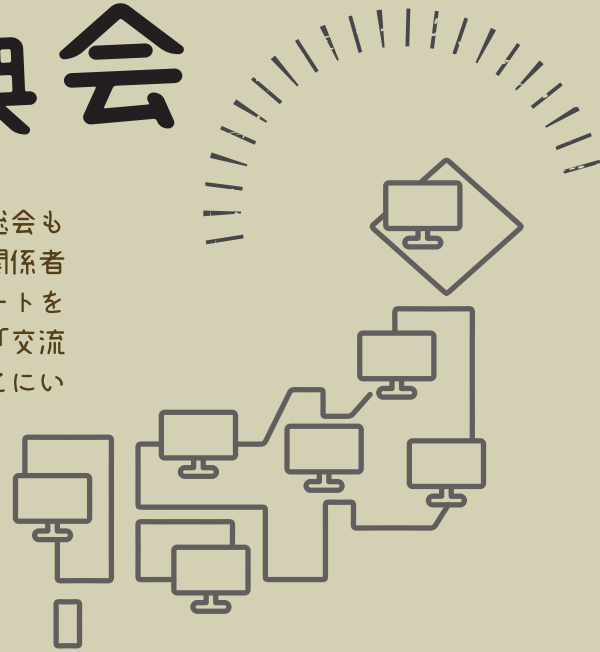


# 公害資料館ネットワーク 意見交換会

新型コロナウイルスの蔓延によって、公害資料館ネットワークの総会もオンラインで開催することとなりました。総会開催前に、公害資料関係者及び会員の皆さんにコロナ禍でどのようなことを行いたいアンケートを行いました。様々な意見をいただきましたが、多く寄せられたのは「交流したい」という意見でした。そこで、総会後に意見交換会を持つことにいたしました。ここではどのような意見が出たかをご紹介します。

- ◆日時：2020年6月28日(日) 14:10-15:10
- ◆会場：オンライン会議システムによる開催
- ◆全体進行：西村 仁志さん ◆参加人数：26名



## グループ報告

### グループ1

Zoomのブレイクアウトルームの機能を利用して、3~4人のグループに分かれ、20分程度意見交換を行いました。その後、グループでどのようなことが話されたか、全員で共有しました。

- ・四日市公害と環境未来館は来館する学校等が少なくなっているが開館はしている。2015年にフォーラムを開催した後にアセアン諸国やインド等の見学が増えており、通訳など人員を強化してきて、海外への発信に対応できている。
- ・発信していく観点が環境技術だけにならないよう、健康被害を置き去りにしないようにしなければならないという指摘もあった。
- ・水島や四日市は大気汚染公害ということもあり、新型コロナウイルス感染症に関連して呼吸器に関する発信をしているのかという問いもあった。
- ・四日市では、患者さんの疾病の特性(夜に症状がひどくなる)などを丁寧に説明するようにしている。
- ・新型コロナウイルスによる生活が抑制されている中で、倉敷では患者さんを見ていて仲間がいることの強さを感じる。またハンセン病の関係の方が、新型コロナウイルスにかかった患者さんを差別する社会の風潮を批判する意見を発信されていて、地元新聞記事ではよく目にするといったことを共有した。

### グループ2

- ・ピンチをチャンスに、オンラインでの研究会に参加できる場があるならばオブザーバー参加歓迎として、こまめに開催を呼び掛けることができれば、より幅広い参加、お互いの刺激になるのではないか。皆さんが集まりやすいのはいつだろうか。
- ・報告書の販売のチャンネルをどうするのか。例えば大学図書館にいれるといった、なにかしらのヒントがあれば広げることができるのではないか、報告書を広げる、販売することをがんばりましょう。
- ・3つの研究会が動いているが、そもそもネットワークを強化するのか、研究にシフトしているのか、共有する必要があるのではないか。

### グループ3

- ・水俣市立水俣病資料館はすでに再開しているが、団体の来館者が減っている。
- ・法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズは、郵送での資料の複写サービスを検討している。
- ・ふたすけ(ふたば地域サポートセンター)では、富岡町で来年3月に考証館の開館をめざしている。伝承だけでなく人々がどう闘い何をなしてきたか残せるものをつくらうと思っている。
- ・映画「MINAMATA」、日本では新型コロナの影響で公開が延期されている。まだ見てないが、興味半分と不安半分といった話をした。
- ・水俣の3者(相思社、国水研、市資料館)が連携したデータベースが準備されていることについて得意分野が違う館が連携しているのは利用者としてもとてもありがたい。福島でもそういった連携ができるといいといった話になった。

### グループ4

- ・来年のフォーラムに関してアイデアが欲しいということから、原爆に関わる平和教育の話やそうした運動とのジョイントができる、福島にもつながるのではといった話がでた。
- ・水俣市に隣接する津奈木町立つなぎ美術館では、現代美術家の柳幸典やユージン・スミス展など野心的な企画を準備中であるが、水俣市では市長が代わった影響か、公害や水俣病に関する企画に後ろ向きである状況を共有。
- ・つぶやきなど共有するなかで、新しいことを発見し広がっていくので、こういう場を活用しましょう。

### グループ5

- ・オンラインでどんなことができるのかという話をした。全国、海外からでも参加できるのはよい点。
- ・日本環境教育学会が、野外活動の補完としてどのようなことができるのかアンケートをとっている。
- ・一方、注意することとして、ビデオのオン・オフなど気を遣うことや、著作権への配慮、改正著作権法第35条などについて話題がでた。
- ・「記録で見る大気汚染と裁判」のウェブサイト、個人情報保護の観点でWEBでの資料公開の再検討の対応が求められている。
- ・オンラインは便利な点と反面、注意することがあるので、そういったことを踏まえネットワークの活動もやっていきたい。

### グループ6

- ・福島で原発と向き合う難しさ。例えば原発事故を題材とした演劇をするのもクラブ活動ではやりにくい。双葉町に国立の資料館が開館するがどのような視点なのかわからない。
- ・大学の看護学科では、予防の観点で公害を伝えている。
- ・大学の自由さと高校の自由の少なさの違いについて意見を交わした。
- ・公害だけでなく、地域の人が地域について学んでいるかという難しい。現地で現地を学ぶというハードルは高いことを共有した。

### グループ7

- ・移動が伴わないため、国際会議への参加のハードルが下がっている。今回もオンラインだから参加できた。
- ・ネットワークのメンバーがコアになって、アウトリーチを考えるよい機会になるのではないか。
- ・例えば、昨年度、ICOMで発表された記録など、いろんな記録をオンラインでギャラリー化、多言語化して発信していく。アウトリーチの1年。
- ・GEOCも開館できない中で、オンラインでのアウトリーチのやり方を模索している。
- ・オンライン用に作成した教材は年度を越えても利用できる(パワーポイントは1枚ごとに音声が入られるといった事例を共有)。これまでの蓄積を考えるにあたりネットワークに参加している皆さんのノウハウが生かされるのではないか。

## その他発言

### 各地の資料館から

- ・今後ともこういった機会に参加したい。
- ・リピーターが少ないという課題があるが、水俣市立水俣病資料館などを参考にして企画展を実施し、新しい展示も増やしているので、ぜひ来館していただきたい。
- ・10名以上の団体はお断りしている。常設以外に企画展をしているが、今年はなかなかできない。状況が変われば企画展をしていきたい。

### その他、意見など

#### ◎ 平野 泉さん (立教大学共生社会研究センター)

- ・オンラインになることで言語の壁も越えられる。例えば、映像に聴覚障害の方のために字幕を付けることもできるし、重度障害などで外出できない方にもリーチできる。知恵を出して、めげずに面白いことを考えていきたい。

#### ◎ 藤原 園子さん (みずしま財団)

- ・昨年のフォーラムでも報告いただいた、岡山県立記録資料館の杉山さんから、杉山さんご自身も収集に関わるようになったので、文書を収集する段階で、公害関連に目配りして広く集めておけるよう、気をつけていきたいと言われていた。記録資料館で協力できることは何でもご相談くださいとおっしゃってくれた。
- ・四日市の資料目録をいただいたが、とてもよかった。

#### ◎ 岩松 真紀さん (立教大学・明治大学等非常勤講師)

- ・大学のオンライン授業で、イタイタイ病資料館のバーチャル展示室を見てくるという課題を出し、展示が学生に好評だった。オンラインが今後どこまで続くかわからないが、この時期にすでに用意されていて非常によかった。

### 終わりに 高田 研代表

宮崎大学の中に土呂久の資料館が開館されるという話を伺った。仲間が増えていくことはとてもうれしい。皆さんのアイデアをいただいて、来年に向けてやっていきたい。